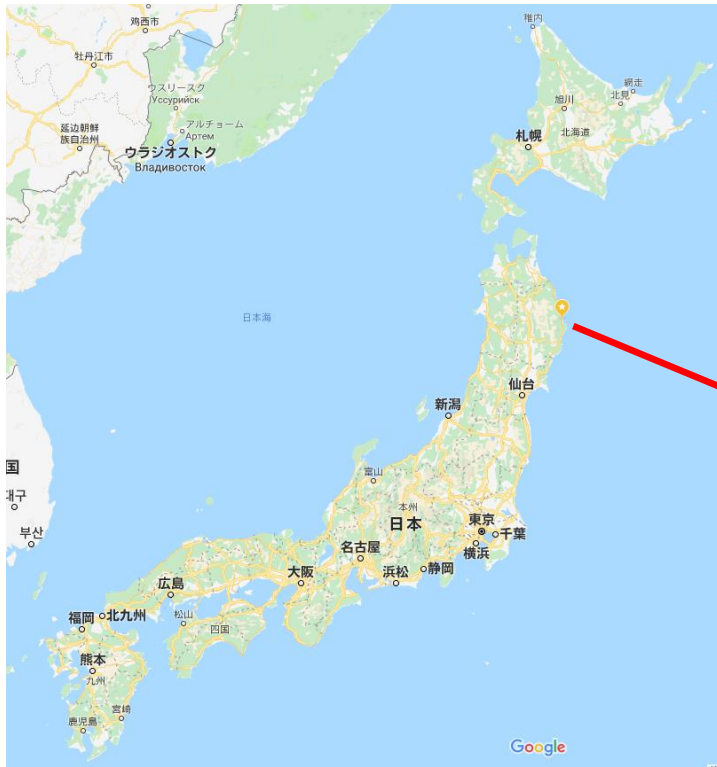


生活困窮者自立支援を通じた地域づくり ～くらしネットみやこ相談室の取り組みを通して～



社会福祉法人宮古市社会福祉協議会
地域福祉課 副主幹 有原 領一

くらしネットみやこ相談室の実績

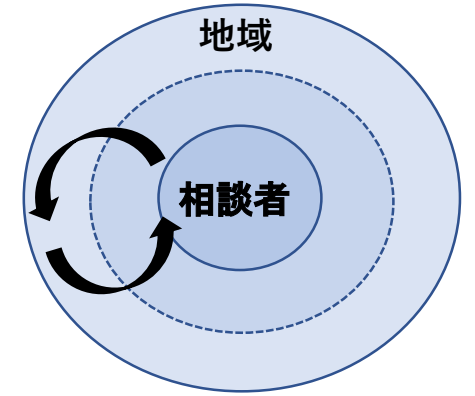
平成27年4月開所		
【生活困窮者自立支援事業】		H31.3までの実績
・自立相談支援	新規相談 804件	延 9,908件
・プラン作成	190件	平成29年度 新規相談件数が目安値以上、 プラン作成件数が全国平均以上 優良自治体 51位（岩手1位） * 上記2つを満たす自治体は57自治体
・住居確保給付金	6件	
・家計相談支援	103件	
・就労準備支援	19件	
・一時生活支援	13件	H30年度しごとネット 65回 218人 荒波キッチン 15回 107人
・学習支援	129件	(H28年度～救護施設松山荘)
・食糧支援	286件	開所:555日、延べ1,151人
【こども食堂/親への自立支援事業】		H28年度から
・しおかぜキッチン	参加者:842人	

相談室の実施事業

	【必須】	【任意】					
	自立相談支援	住宅確保給付金	就労準備支援	就労訓練	一時生活支援	家計相談支援	学習支援
宮古市	●	(直営)	●	▲	● (松山荘) * H28年度から	●	●

「個別支援」を通じた「地域支援」

「生活の自立」に必要な要素…



① 経済的自立

- ・就労(ライフスタイルや強みを生かした仕事…)
- ・制度の活用(セーフティネットの活用)

← 個への支援

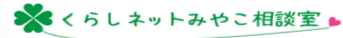


② 社会的孤立の解消

- ・本人が安心できる居場所
- ・本人に役割のある居場所
- ・地域の中で包摂される仕組み

← 地域への支援

くらしネットみやこ相談室の事業イメージ



【生活困窮者自立支援事業】

宮古市福祉課

- ・ **自立相談支援**
- ・ 家計相談支援
- ・ 住居確保給付金
- ・ 一時生活支援
- ・ 就労支援

- ・ **就労準備支援**

しごとネット

【提供実績団体・企業】

- ・ (株)花坂印刷工業
- ・ 共和水産(株)
- ・ NPO法人みやコラボ
- ・ 末広町商店街振興組合
- ・ 昭和通りのおかみさんおもてなしたい
- ・ 岩手県共同募金会宮古市募金委員会
- ・ 宮古市社会福祉協議会

【就労準備支援事業拠点整備】

【こども食堂および親の自立支援事業】

宮古市こども課

＜こどもの貧困の連鎖解消＞

- ・ **学習支援***
(まなびネット)

パソコン教室
ピアノ教室

しおかぜダイニング*
(こども食堂)

しおかぜキッチン*
(こども食堂)

地域人材の育成

- ・ **食糧支援***
(フードドライブ)

業務提携

業務提携

(時間外相談対応)

【協力団体】

よりそいホットライン

- ・ NPO法人フードバンク岩手
- ・ 生活協同組合連合会コープ東北サンネット

【社会福祉協議会】

- ・ 資金貸付
- ・ 生活復興支援センター
- ・ ボランティア市民活動センター
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 生活支援コーディネーター

【協力実績団体・企業】

- ・ 連合岩手(宮古、釜石、二戸地協)
- ・ 東北電力労働組合宮古支部
- ・ 岩手大学
- ・ 陸中宮古ライオンズクラブ
- ・ 小野寺商会(株)
- ・ 社会福祉法人若竹会
- ・ 社会福祉法人慈恵会
- ・ 末広町商店街各店舗

【地域課題解決に参画の 新たな仕組みづくり】

- ・ 人材
- ・ 物(食材、衣類…)
- ・ 資金

【IWATEあんしんサポート事業】*

- ・ 社会福祉法人若竹会
- ・ 社会福祉法人恵心会
- ・ 社会福祉法人田老和心会
- ・ 社会福祉法人新里紫桐会
- ・ 社会福祉法人川井心生会
- ・ 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

*印…アウトリーチ機能の充実

【連携機関】*

福祉事務所、地域包括支援センター、行政関係部署、職業安定所、保健センター、一時保護施設、医療機関、居宅介護支援事業所、障害者就業・生活支援センター、障害者支援機関・施設、児童相談所、学校、若者サポートステーション、法テラス、弁護士、警察、民生委員児童委員、NPO・ボランティア団体、不動産業者など



地域住民
民間企業等

「地域資源づくり」のきっかけは支援調整会議

「支援調整会議の構成」

- 開催日：定期開催（毎月一回、第4水曜日）
- 構成団体：宮古市福祉事務所、宮古市地域包括支援センター、
宮古公共職業安定所、松山荘（岩手県社会福祉事業団）、
宮古地区チャレンジド就業・生活支援センター
- 目的：
 - ・プランの適正確認や共有、終結時の評価
 - ・社会資源の把握と開発に向けた検討

生活困窮者自立支援を通じた地域づくり

【しおかぜキッチン&しおかぜダイニング】



「こども食堂」の始まり



平成28年度、特定非営利活動法人JENより事業受託。

- ・相談室開設から1年、「ひとり親世帯」からの相談が増加
- ・相談は、市役所、スクールソーシャルワーカー、職業安定所からが多い
- ・ひとり親世帯は、即効性のある援助には意欲的であるが、自立に向けた支援は即効性が薄く、継続して関係を構築することに課題があった
- ・相談室が把握する、生活課題を抱えた「ひとり親世帯」やこどもが属する世帯は、相談を出来る力を持った世帯であり、相談につなगरることが出来ない世帯を把握することに課題があった
- ・支援調整会議でも同様の課題提起があり、「こども食堂」を安心して相談機関と関われる場、世帯の家族関係を知れる場、いつでも相談できる場として開始

「こども食堂」事業目標と評価



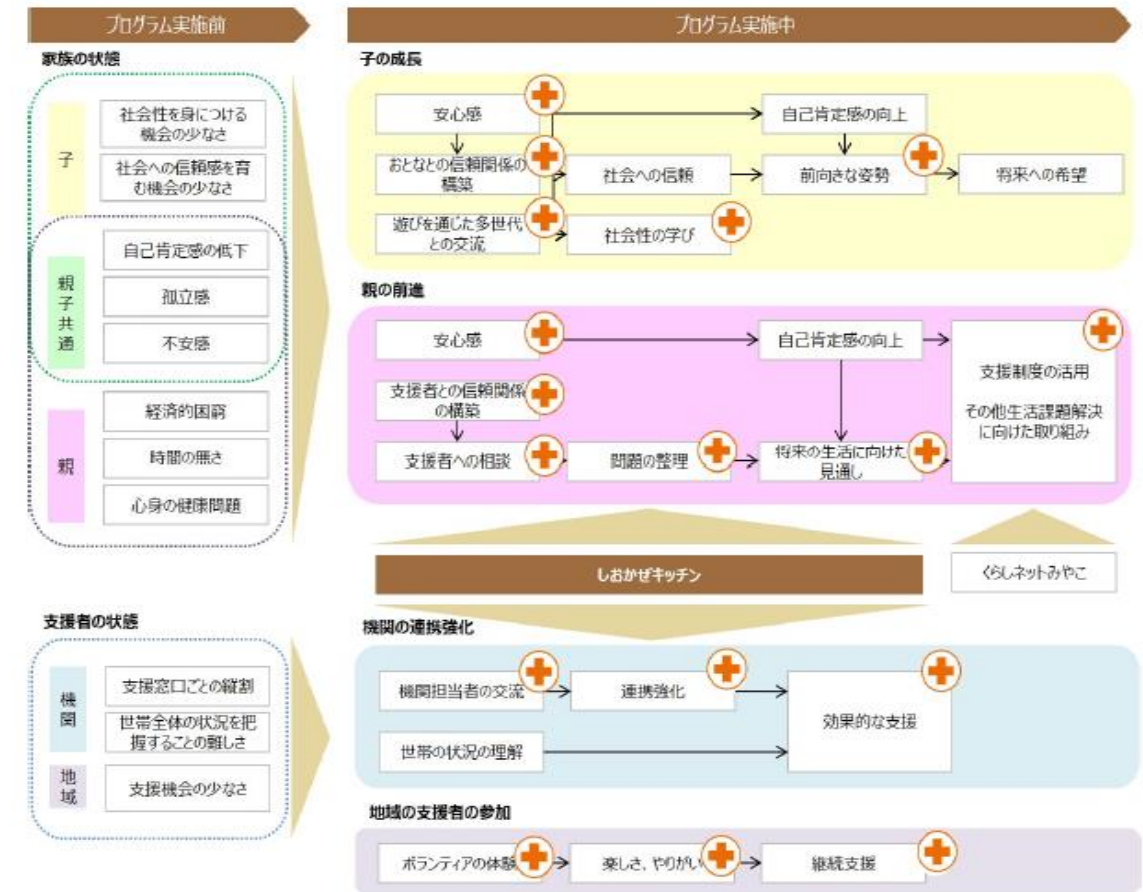
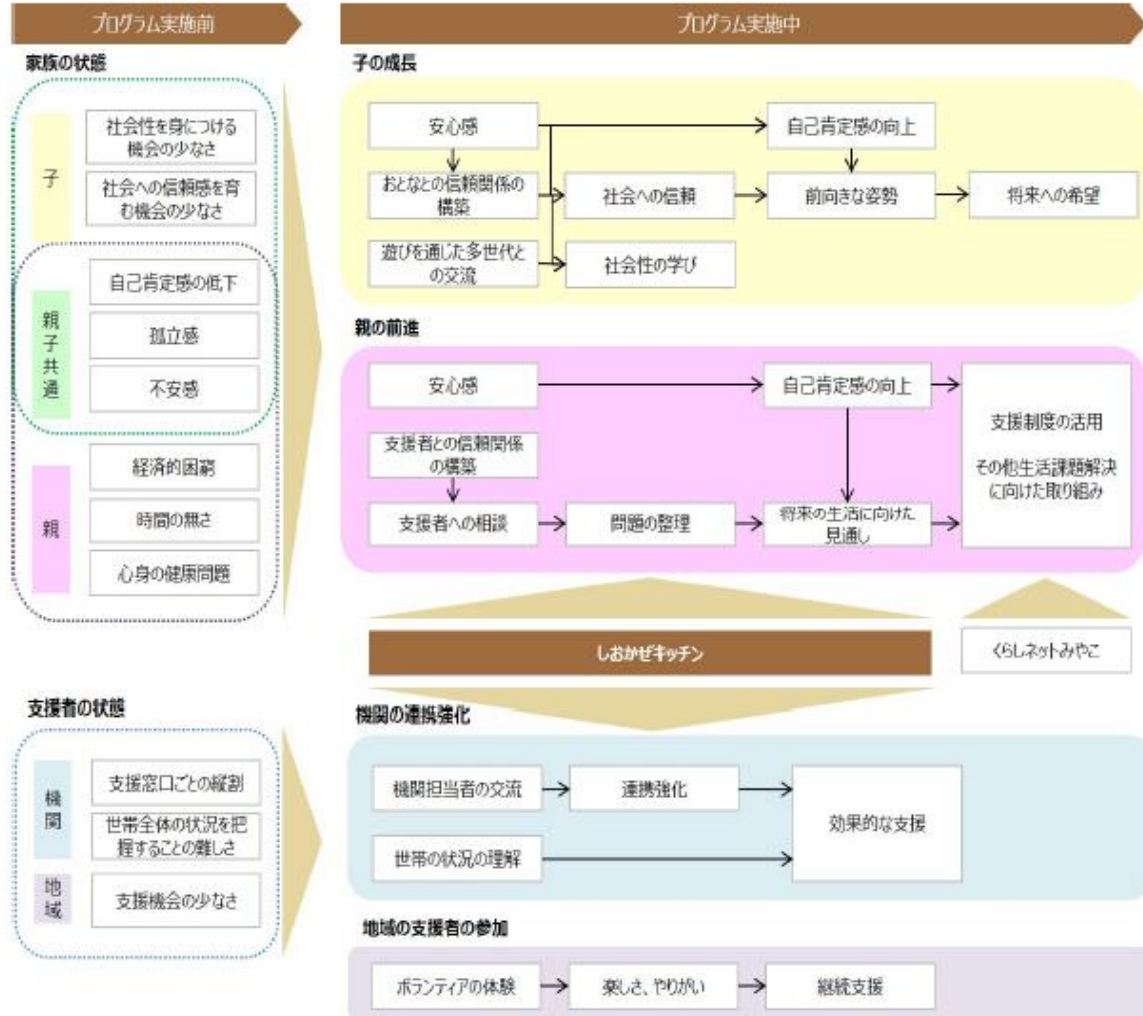
図表2 しおかぜキッチン ロジックモデル

事業目標：多様な主体の協働による困難を抱える世帯が包摂される地域のシステムづくり

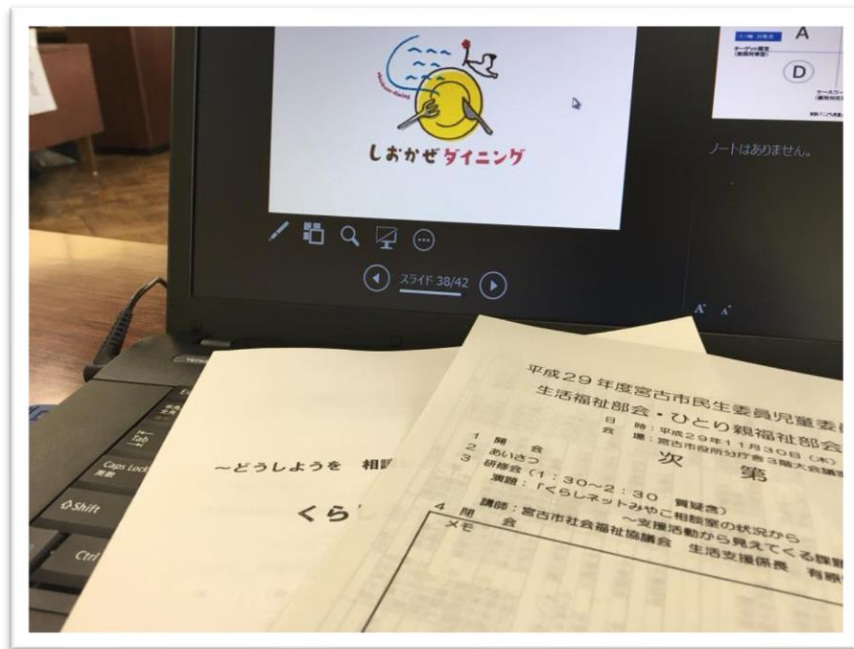
対象者：ひとり親世帯、そのほか困難にあるこどものいる世帯

アウトカム評価の結果

- ・正の変化が確認されたアウトカム(+)でマーク
- ・マークが無いものは投票からのデータ収集・分析では確認できなかったもの



「こども食堂」の広まり



【平成29年度宮古市民生委員児童委員協議会】
生活福祉部会・ひとり親福祉部会で報告

- 各地区民生委員児童委員協議会で報告
- 津軽石地区で「わくわく・ハッピーこどもダイニング」開始につながっていく！

【平成29年度こども食堂フレンドカフェ】
参加者：25名



【平成29年度こども食堂
運営支援者養成研修会】

参加者：76名



未来あるこどもたち
その子どもたちが暮らしを支える仲間になりませんか

子ども食堂は興味・関心がある人たちが自由に語り合う会

子ども食堂フレンドカフェ



地域の子どもの状況や現状を語り合いたい
地域に合った「子ども食堂」とは？

参加費無料



もう少し「子ども食堂」について知りたい

どんなことから始めたら
いいのかわからない

地域に子ども食堂を広げていくためにみんなで一緒に考えていきましょう。

3月3日(土) 14:00~15:30

宮古市総合福祉センター 2階地域活動センター

お申込みは ☎65-7046 / FAX 65-7047

主催：宮古市社会福祉協議会・くらしネットみやこ相談室/協力：特定非営利活動法人JEN(ジェン)

「こども食堂」の広まり



【平成30年度こども食堂
フレンドカフェ】

参加者：25名



【平成30年度ひとり親家庭の親や子への
支援フォーラム及び研修会】

フォーラム参加者：61名
研修会参加者：13名



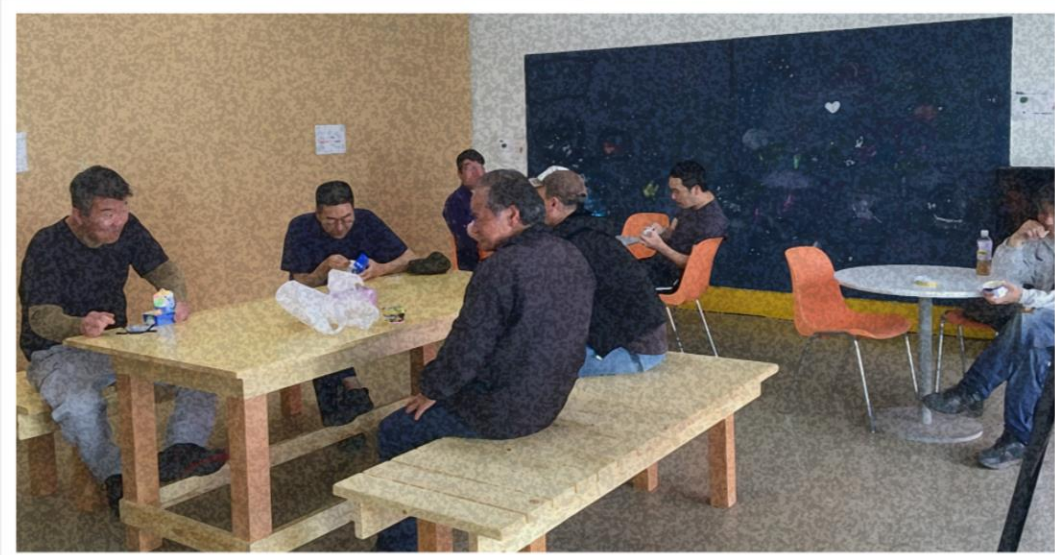
【平成30年度こども食堂
スタッフ評価会議】

参加者：15名



生活困窮者自立支援を通じた地域づくり

【荒波キッチン&しごとネット】



就労準備支援拠点施設整備

① 経済的自立に向けて

- ・就労準備支援の実施(就労に向けたスキルアップ)
- ・しごとネットの実施(民間企業と協働した仕事づくり)
- ・対象者が賃金を得られる仕組み?(軽食…)



「日常生活自立」に向けたスキル習得



「社会自立」に向けたスキル習得



「就労自立」に向けたスキル習得



② 社会的孤立の解消

- ・自分なりの役割がある場
- ・いつでも気軽に来られる場
- ・困っている人でも互いに支えあえる場



誰もが誰かに必要とされる場



生活・就労スキルの獲得と
コミュニティの形成、荒波キッチン



民間企業等との連携(しごとネット)

働く体験と対価を得ることでの肯定感と意欲向上

こどもの貧困の連鎖解消に向けて
(子ども食堂、学習支援)



「荒波キッチン」の始まりと効果

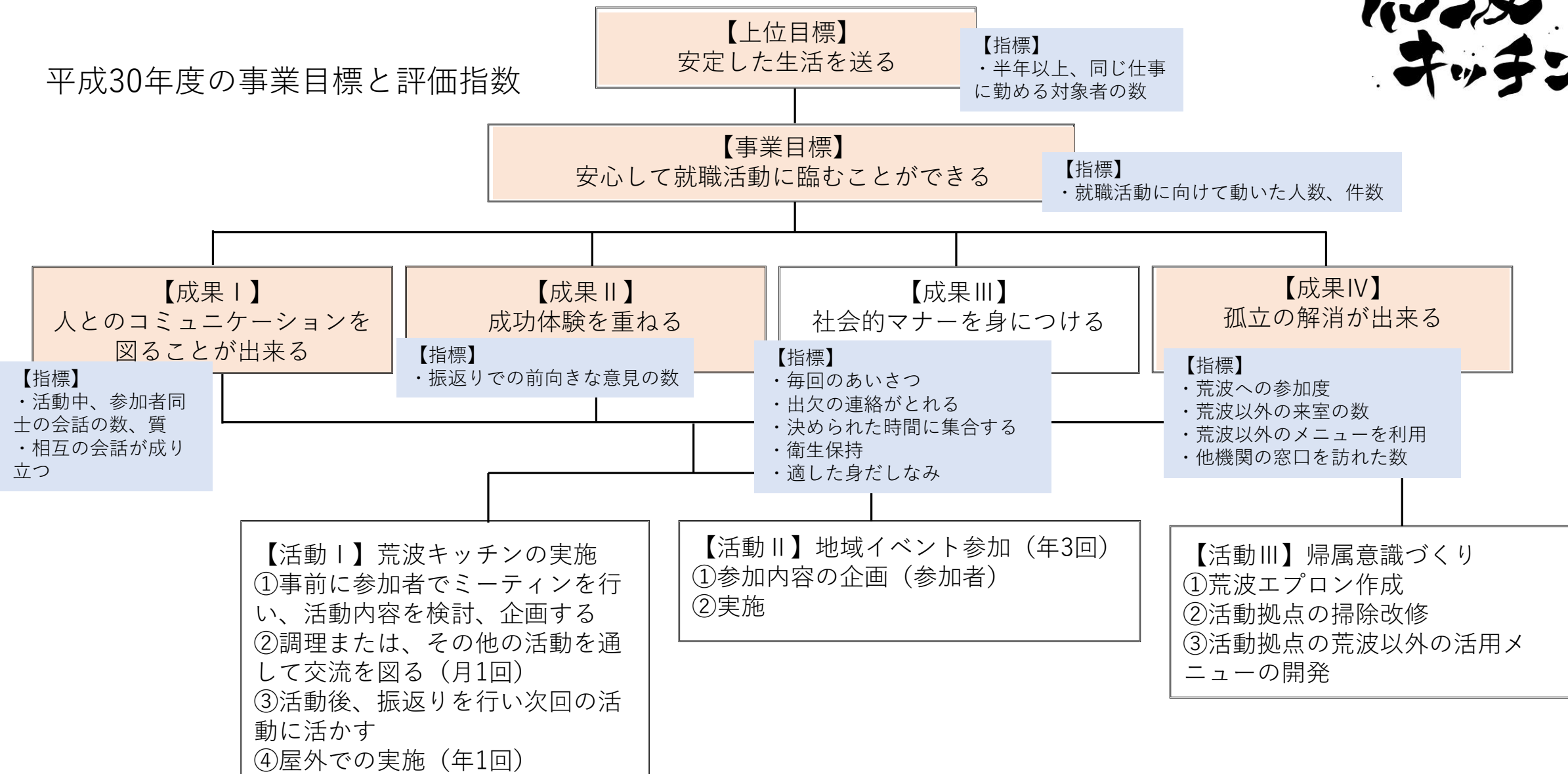


- ・就労支援対象者、就労準備支援対象者の就労に向けた課題が、日常生活自立が必要であることが多い
- ・対象者が仕事に就くことが困難、または継続することが出来ない理由(背景)を相談援助場面だけでアセスメントしていくことへの限界…
- ・これらの課題を、支援調整会議を通じて職業安定所担当職員とともに共有しており、職業安定所担当職員の提案で事業を開始した
- ・調理室のある公民館を利用、事業費は共同募金配分金を活用した
- ・相談援助場面ではなく、生活場面に近いことで、本人の能力や適性を紐解いていくことができる
- ・参加者同士のコミュニティーが形成され、刺激しあい就労に自ら向かっている

「荒波キッチン」事業目標と評価



平成30年度の事業目標と評価指数



「荒波キッチン」事業目標と評価



令和元年度の事業目標と評価指数

【上位目標】
商店街の担い手となる

【指標】
・商店街の仕事やイベントに参加した数

【事業目標】
商店街の人とコミュニケーションがとれる

【指標】
・キッチンで商店街の人と会話している
・キッチン以外で商店街の人と会話している

【成果Ⅰ】
自分の役割がある

【指標】
・キッチン参加率が80%以上

【成果Ⅱ】
自分に対してのプラスの評価が増える

【指標】
・振返りシートに「+」の自己評価が増える

【成果Ⅲ】
社会的マナーを身につける

【指標】
・毎回のあいさつ
・出欠の連絡がとれる
・決められた時間に集合する
・衛生保持
・適した身だしなみ

【成果Ⅳ】
商店街、町内の人に参加する

【指標】
・商店街、町内の人
が毎回1人以上参加する
・しおかぜダイニング
を年12回開催する

【成果Ⅴ】
商店街、町内の人に活動を知ってもらう

【指標】
・商店街、町内の
清掃活動を年2回
以上実施する

【活動Ⅰ】 荒波キッチンの実施
①事前に参加者でミーティングを行い、活動内容を検討、企画する
②調理または、その他の活動を通して交流を図る（月1回）
③活動後、振返りを行い次回の活動に活かす
④屋外での実施（年1回）

【活動Ⅱ】
①振返りシートの記入
②参加者へのヒアリング

【活動Ⅲ】
①声掛け（訪問）
②周知チラシの作成
③通信の発行
④しおかぜダイニングの実施

【活動Ⅳ】
①ユニフォームの作成
②清掃活動

パソコン教室の活用

くらしネット通信 vol.1

発行：令和元年6月1日

<くわくわくハッピーこどもダイニング>

地域の子ども達をはじめ、誰もが参加できるこども食堂として、昨年12月津軽石地区でオープンし地域の方約40名が参加しました。会場である津軽石公民館には、地域の民生委員さんや、住民さんが食事作りに参加。会場では、子ども達と地域の高校生ボランティアや現先生と一緒に遊んだり、地域の元先生に宿題を教えてもらいました。

この日の献立は「豚汁とおにぎり」。暖かい食事をみんなで一緒にいただきました。「おいしい」と食べる子ども達の様子を、地域の方々も笑顔で見守りました。こどもダイニングでは、当日にごはんを作ってくれる方、一緒に遊ぶ、勉強を教えてくれる方、食堂には来られなくても食材を提供してくれる地域の方や商店もありました。地域に暮らす方々が、自分のできることを持ち寄って開催されました。



<就労準備支援拠点施設内装完成！>

くらしネットみやこ相談室では、向かいの建物（元ひつみや）を就労準備拠点施設として活用することを目指し改装工事を行ってきました。改装工事を行ったのは、事業を利用して皆さん。昨年10月から建物内の壁面清掃とクロス貼り、施設内で利用する作業台や椅子を地元大工さんの協力で行ってきました。施設内には、作業スペースと交流スペースを設置。また、これまで市内公民館を利用して開催してきた「荒波キッチン」を拠点施設で実施するために調理室の清掃や設置も行いました。これからは、地域の皆さんや企業の方々のご協力をいただきながら、いろんな人が行き交う場所、居場所となれる場所を目指していきます。

誰もが居心地よく過ごせる場所、誰もが役割を持てる場所としての機能を目指します。



【2号館月間スケジュール】

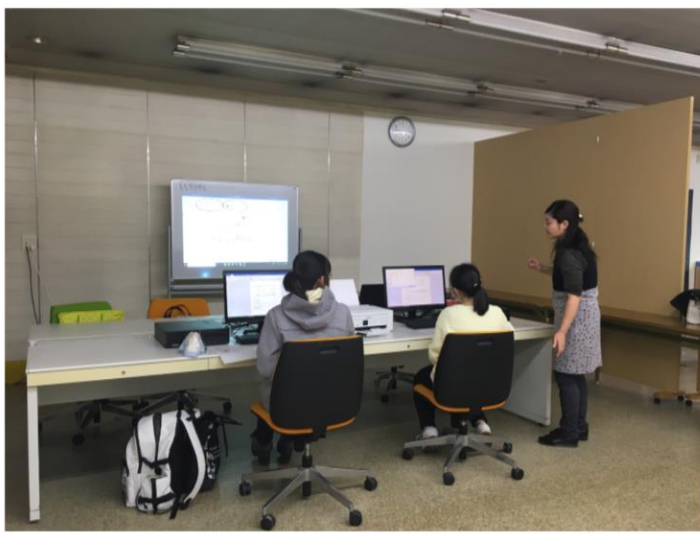
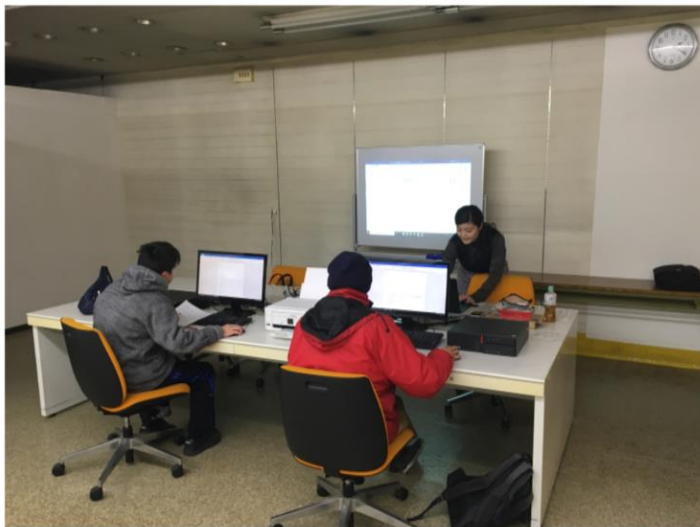
2019年6月	2019年7月
パソコン教室 4日(火)、11日(火)、18日(火)、25日(火)	パソコン教室 2日(火)、9日(火)、16日(火)、23日(火)
荒波ミーティング 21日(金) 10:00～	荒波ミーティング 19日(金) 10:00～
荒波キッチン 28日(金) 10:00～	荒波キッチン 26日(金) 10:00～
すまある 6日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木) 10:00～15:00	すまある 4日(木)、11日(木)、18日(木)、25日(木) 10:00～15:00
22meet 14日(金)11:00～15:00、28日(金)13:00～15:30	22meet 12日(金)11:00～15:00、26日(金)13:00～15:30
会議利用 26日(火) 13:30～	ボランティアセンター出張相談会 第1・3火 2日(火)、16日(火)13:00～16:00
	会議利用 24日(火) 13:30～

発行：社会福祉法人 宮古市社会福祉協議会

編集：くらしネットみやこ相談室

住所：宮古市末広町4-9

TEL：65-7046



パソコン教室



「まなびネット」では、パソコンの基本的な知識、スキルを習得するためにパソコン教室を開催します。

これからの授業や仕事で役立てたいという方、ぜひ参加してみてください。

- 日程 7月2日(火)、9日(火)、16日(火)、23日(火)
- 時間 ①13:00～14:00 ②14:30～15:30
- 場所 くらしネットみやこ相談室
- 内容 パソコンの基本的操作、Word・Excelの操作方法など
- 定員 各回2人
- 申込み 開催日前日まで
- 参加料 無料



申し込み
問い合わせ

くらしネットみやこ相談室（担当：大槌）

電話 0193-65-7046

FAX 0193-65-7047

「よりそいホットライン」との連携



平成27年度から時間外対応について協定
平成29年度から、「荒波キッチン」を協働

今年度より

誰もが気軽に立ち寄れる場として

「つつmeet」を月2回開催

(就労準備支援事業拠点施設を活用)

→被災者や、当事業利用者、相談者

商店街や町内の方々の参加がある

→来客者には、事業対象者がカフェを提供

コミュニティスペース
"つつMEET" (つつみーと)

誰かと話したいとき、
フラッと立ち寄ってください。
決まりごとはありません。
誰でも過ごせる居場所づくりをしています。

日時：毎月第2金曜日 11:00～15:00
毎月第4金曜日 13:30～15:30
場所：くらしネットみやこ相談室2号館

※時間内出入り自由。参加費無料。
お問合：宮古市生活復興支援センター 0193-77-3061
駐車場は近隣の有料駐車場をご利用くださいますよう、
ご協力をお願いいたします。



「事例検討会」の開催

社会福祉法人との連携

「IWATE・あんしんサポート事業」(社会福祉法人経営者協議会)

- ・地域に暮らす生活困窮者等の生活課題を解決するために、
既存制度がある場合には、関係機関との調整の上、助言や窓口への同行支援等
- ・生命に係る緊急性や、既存制度では対応しきれない福祉課題が認められる場合には、
1世帯5万円を上限に現物給付

- * 市内6法人、法人に所属する36人の安心サポート相談員とネットワークを設立
- * 当事業主催の「事例検討会」を年3回開催(協力:岩手県社会福祉協議会)
- * 各法人が行う「事例検討会」に助言者として参加

→ 個別事例を通じた対応の振返りと標準化、地域資源の把握と調整と開発を目指す



ひきこもり支援

なぜ男は児童を襲ったのか。川崎市で起きた殺傷事件で、自殺した容疑者の動機解明が難航する中、男が「ひきこもり傾向」だったことがクローズアップされている。

偏見が「出口」を閉ざす

そして、新たな事件が起きた。元農林水産事務次官が長男を刺したとして逮捕。「川崎の事件を知り、ひきこもりがちだった長男が人に危害を加えるかもしれないとも思った」との趣旨を供述した。

ネットでは、ひきこもりバッシングが一気に噴出。そんな中、ひきこもりの当事者や家族は偏見に苦しみ、将来へり、学校安全対策が強化され

るきつかけとなった。この時、偏見が深刻な事態を招いたことも忘れてはならない。

逮捕後、男の不審な言動や「精神科入院歴」が盛んに報じられた。後に「精神疾患のふりをすれば刑事責任を免れる」と思った」と供述したもの

同様の事態を繰り返さないために必要なのは、排除ではなく理解だ。ひきこもりの長期化、高齢化が進む中、内閣府は初めて中高年（40〜64歳）の実態を調査し、今年3月に推計61万3千人と公表。若者と合わせると100万人

を超えたとみられる。身近な問題として認識し、公的な支援を充実させていきたい。

高齢の家族にとって、こうした事件が起れば不安が募る一方だろう。だが、一足飛びに就労させようとしても、かえって対立が深まりかねない。

い。本人を無理やり自宅から連れ出し、法外な料金を請求する「引き出し屋」トラブルも起きている。本人の思い、ペースを尊重し、まずは安心して思いを話せる場につなげるなど、少しずつ「出口」へ歩んでほしい。

近年は、ひきこもり当事者や経験者がネットを活用して思いを発信するようになった。その一つ、「ひきボス」のサイトで川崎事件に言及した記事は、次のように結ぶ。

「想像力」は「偏見」の強い対義語となるのだ」

ひきこもりへの偏見にさらされた当事者と家族は今、どんな思いをいだいているだろうか。想像力を働かせてほしい。

ゆらく砦

民生児童委員のいま

第4部

制度の限界⑥

ひきこもり①

たち。就労前の居場所でもあるキッチンに参加し、「前向きな気持ちになれた」と感謝する一方、世間の厳しい仕打ちを経験した過去が脳裏に浮かんだ。

同市の男性（40）は10年前に地元に戻り、水産加工場などの職場を転々とした。「指示通りに動いても違ふと言われ、正社員になる前の試用期間で切られてしまった」。機械に指を巻き込まれる労災事故に遭って以来、「どうすればいいか、次の選択が分からないかった」とひきこもった。

家族の勧めもあり、盛岡市内の病院を受診すると、対人関係の難しさや注意不足を伴う「発達障害」と診断された。障害者手帳を申請中で、ようやく自分にとっての就労の道を考えられるようになってきた。

キッチンへ参加するきっかけは、主に要介護者帯に關わる地域包括支援センターや、家族の紹介を通じて。18年度に活動した16

問われる地域の理解



ひきこもりの当事者らが外国人観光客を出迎えた「荒波キッチン」。地域に理解を深めてもらうとともに、就労のきっかけづくりの場となっている＝宮古市末広町



（第4部終わり。第5部は5月下旬の予定です）

人のうち、ひきこもりは6人を占めたが、民生児童委員が関わったケースは一件もなかった。

キッチンを担当する宮古市社協の相談支援員、木村貴子さん（59）は「本人の努力だけでは抜け出せない状況にもかかわらず、地域で

オープンに支援を語り合える環境になっていない」と現状を憂える。

なぜか、一つに「ひきこもり支援に対する地域社会の「偏見」が指摘される。「社会の目は厳しい。本人や家族はますます内にこもってしまう」。長年、ひきこもりの次男に悩まされた。当時の28歳と向き合った、陸前高田市田町の佐々木善一さん（69）は訴える。高

校卒業後にひきこもった息子は、東日本大震災の津波で「一緒に逃げよう」という母みきさん（同67）の説得にも応じず、2人とも犠牲となった。

佐々木さんは現在、ひきこもりの家族会「いわて石わりの会」の代表と並行して、民生委員の中で子どもの支援を専門とする主任児童委員を務める。

「親の育て方が悪い」と厳しい見方をする委員もいる。支援の機会が少ないうえに理由なのだろうか

い。本人を無理やり自宅から連れ出し、法外な料金を請求する「引き出し屋」トラブルも起きている。本人の思い、ペースを尊重し、まずは安心して思いを話せる場につなげるなど、少しずつ「出口」へ歩んでほしい。

近年は、ひきこもり当事者や経験者がネットを活用して思いを発信するようになった。その一つ、「ひきボス」のサイトで川崎事件に言及した記事は、次のように結ぶ。

「想像力」は「偏見」の強い対義語となるのだ」

ひきこもりへの偏見にさらされた当事者と家族は今、どんな思いをいだいているだろうか。想像力を働かせてほしい。

ゆらく砦

民生児童委員のいま

第3部 子どもの未来④ 潜む貧困

の民生委員伊藤厚子さん(68)が参加した研修会。市社会福祉協議会(社協)が市内で月一回、ひとり親世帯を対象に開く子ども食堂「しおかぜキッチン」の実践報告を聞いた。

「わあ、あったかい飯だ。そうつぶやいた子のエピソードに、胸が締め付けられた。親からお金を渡され、1日にパン1個かカップラーメン1個だけの子がいる現状があった。」

「この飽食の時代に、食べられない子どもがこんな身近にいると知り、ショックだった。子どもの貧困が深刻化する中、宮古市津軽石地区の民生児童委員は昨年12月、地域の子どもの無料で昼食を振る舞う「子ども食堂」の運営に乗り出した。

きっかけは市民生委員児童委員協議会ひとり親福祉部会のメンバーで、同地区

3回目となった今日9日。津軽石公民館に「いただきます」の元気な声が響いた。小学生を中心に約40人が集まった。委員7人も調理に、遊び相手にと、動

「食堂」で兆候逃さず



民生児童委員や地域住民が切り盛りする津軽石地区の子どもの食堂。子どもと地域がつながる場として期待される。宮古市津軽石・津軽石公民館



宮古市津軽石地区
○世帯数 約1600世帯
○特性 宮古湾の湾奥部に位置し、サケの遡上(そじょう)で有名な津軽石川が流れる。震災津波で被害を受けたと

帯の25%が「必要とする食料が買えないことがあった」とし、経済的困難が浮き彫りとなった。市社協が主催・運営する「しおかぜキッチン」は、津軽石地区のように震災の津波に見舞われ、親を失うなどした子どもの利用も多い。

津軽石地区の子どもの食堂は「しおかぜキッチン」として、対象を限定せず、誰でも参加を歓迎。見守りながら、親を失うなどした子どもを支援する形にした。

桂悦さん(76)は「民生委員が家庭訪問をすれば、どうしても相手が硬くなる。気になる子ども食堂にあれば様子を見られるのがいい」と目を配る。

元教員で民生委員の上野桂悦さん(76)は「民生委員が家庭訪問をすれば、どうしても相手が硬くなる。気になる子ども食堂にあれば様子を見られるのがいい」と目を配る。

18人の子供が暮らす同地区の災害公営住宅で管理人を務める若江美伊さん(74)も「顔を覚えてくれたのか、登下校の時もあいさつをしてくれるようになったと実感する。」

「福祉の分野は子どもと直接関わる機会が少ない」と指摘する市社協地域福祉課の原領一(みづのり)は「子ども食堂に行くことで関わりが始まる。親の状態に左右されることなくいろいろな機会を提供することが、将来の貧困を防ぐことにつながる」と見守る。

「食堂」で兆候逃さず



民生児童委員や地域住民が切り盛りする津軽石地区の子どもの食堂。子どもと地域がつながる場として期待される。宮古市津軽石・津軽石公民館

「もの未来④ 潜む貧困

桃の節句に合わせて用意した子どもたちの生活環境調査に類張る様子を、伊藤さんたちは優しく見守った。

同市が2018年に公表した子どもの生活環境調査(抽出方式。回答380世帯)。ひとり親世帯(47世帯)の25%が「必要とする食料が買えないことがあった」とし、経済的困難が浮き彫りとなった。市社協が主催・運営する「しおかぜキッチン」は、津軽石地区のように震災の津波に見舞われ、親を失うなどした子どもの利用も多い。

津軽石地区の子どもの食堂は「しおかぜキッチン」として、対象を限定せず、誰でも参加を歓迎。見守りながら、親を失うなどした子どもを支援する形にした。



宮古市津軽石地区

- 世帯数 約1600世帯
- 特性 宮古湾の湾奥部に位置し、サケの遡上(そじょう)で有名な津軽石川が流れる。震災津波で被害を受け、津軽石小付近に公民館や災害公営住宅が整備された。津軽石地区民生委員児童委員協議会は定数14人で欠員1。地区内は小学校2校、中学校1校、高校1校

18人の子供が暮らす同地区の災害公営住宅で管理人を務める若江美伊さん(74)も「顔を覚えてくれたのか、登下校の時もあいさつをしてくれるようになったと実感する。」

「福祉の分野は子どもと直接関わる機会が少ない」と指摘する市社協地域福祉課の原領一(みづのり)は「子ども食堂に行くことで関わりが始まる。親の状態に左右されることなくいろいろな機会を提供することが、将来の貧困を防ぐことにつながる」と見守る。